

新 年 の こ と ば

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、ごあいさつ申し上げます。

議会は、二元代表制のもと市長とともに本市を支える一翼を担っており、執行機関に対する監視機能を高めるとともに、さまざまな形で多様化する市民ニーズを的確にとらえ、市政に反映することを大きな使命としております。

そのような中、市民の意思が直接反映される選挙について、選挙権年齢が18歳に引き下げられてから初の国政選挙が行われましたが、全国的に若年層の投票率が低いことが課題となっており、これに対応するため、本市議会では、議会改革調査特別委員会において、小中学生を対象に本会議場を利用した社会科の特別授業を行うことといたしました。

今後とも、市民に開かれた議会を目指し、さらなる議会改革に取り組んでまいります。

さて、昨年を振り返りますと、リオデジャネイロオリンピックにおける史上最多の41個のメダル獲得や、12月定例会において本市の名誉市民に選ばれました、大隅良典東京工業大学栄誉教授のノーベル賞受賞など、日本を元気にする多くの出来事がありました。一方で、4月14日に熊本地震が発生し、熊本、大分を中心に甚大な被害をもたらしました。改めて被災されました皆様方にお見舞い申し上げますとともに、亡くなりました方々に心から哀悼の意を表すものであります。

本市におきましては、2021年世界水泳選手権が、2001年の福岡大会から20年目という節目の年に再び本市で開催されることとなり、また、博多祇園山笠を含めた「山・鉾・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことで、スポーツ、文化の振興がさらに地域に根付いていくものと考えております。

市民生活におきましては、市政に関する意識調査において、「福岡市の住みやすさ」が過去最高値を記録し、市民の多くが本市での生活に満足されていることを実感いたしました。一方、博多駅前2丁目交差点付近の道路陥没事故により、多くの方々に多大な御迷惑をおかけしたことは、誠に遺憾であり、今後は、原因究明と被害を受けた方々への補償が急がれるところであります。

本市は依然として厳しい財政運営を強いられておりますが、人口が155万人を突破した元気ある都市として、活力と魅力にあふれ、安心・安全で住みやすい福岡を築いていくため、議員一同、今後とも一層努力してまいりたいと決意を新たにいたしております。

市民の皆様のみまますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成29年元旦

福岡市議会議長 おばた 久弥

福岡市議会副議長 石田 正明